



秘境駅、最後の夏

函館市医師会
函館渡辺病院

水 関 清

北海道各地のローカル線を走る列車を減便したり、運転区間を短縮し、乗降客数の極めて少ない駅を廃止する、JR北海道の動きが止まらない。この見直しの直接的な要因は、国鉄時代からローカル線輸送を担う主力的存在であった気動車・キハ40の老朽化による、保有車両の減少とされるが、JR北海道グループ全体の財務体質を抜きにしては語れない問題が背後にあることを指摘する向きも多い。

北海道新幹線営業運転開始とともに2016年3月26日に廃止されたのは、8駅。石勝線の十三里・東追分の各駅、根室線の花咲駅、石北線の上白滝・旧白滝・下白滝・金華の各駅、そして函館線の鷲ノ巣駅である。当初廃止対象であった室蘭線の小幌（こぼろ）駅は、地元自治体の管理のもとで当面の存続が決まった。道南の内浦湾の海岸線に、いくつものトンネルを連ねて敷設された室蘭線の、静狩～礼文間にあるこの駅は、そこに通じる道路すらなく、下り2本、上り4本、計1日6便の普通列車で降り立つ以外のアクセス手段はないという、珍しい駅である。その存続決定は、「駅」を訪れること自体を目的とする旅の存在を世に示す契機となったが、ダイヤ改正後は午前の下り便が消滅して駅滞在時間は窮屈になり、駅存続のために示された自治体の厚意が活かし切れない事態となっている。一部の好事家の間では以前から、人里離れた原野や山奥、海岸線などにあり、日常的な利用者もほとんどおらず、ひと言でいえば、「どうしてここにあるのか、よく分からない駅」の存在自体はよく知られており、いつしか「秘境駅」と呼ばれるようになっていた。それらを踏査して、その実態を「秘境度ランキング」の形で発表したのは、牛山隆信である。その不動の首位が、この小幌駅なのである。駅周囲の三方が断崖、一方が海におりる傾斜地、駅の両端には「新追加牛トンネル」と「礼文華トンネル」という二つの長大トンネルが控えるために、ホームはわずか87メートルの、崖と崖の間の窮屈な空間に設けられているという「秘境度」、前身の信号場時代から「駅舎と呼び得るような建物のない独特の雰囲気」、停車する列車本数がきわめて少ないという「到達困難性」、駅に通じる道路がないという「孤立性」、などを総合的に勘案すると、他を圧した揺るぎない首位にランク付けされるのだという。

これら8駅に次いで、2017年3月に廃止されるこ

とが明らかになったのが、函館線の桂川・姫川・東山・北豊津・蕨岱の5駅である。牛山のランキングによると、姫川は24位、東山は23位、北豊津は26位、蕨岱は85位に位置しており、いずれも相当な「秘境駅」である。道南の茅部郡森町にある東山駅は、国道から500メートルほど入った町道の脇から、さらに線路沿いに50メートル進んだ、林の中にある。数段の石の階段を上ると、屋根のない板張りホームと駅名標だけがあるという、簡素な駅である。線路を挟んだホームの向かい側には灌木の繁る築堤があり、森町方向に向かって緩やかな上り坂となっている。これは蒸気機関車時代のスイッチバックの跡であり、道南の秀峰として名高い駒ヶ岳山麓の急勾配を走ったSL機関士の労苦がしのばれる遺構である。

定期を手にした高校生が、この駅から毎日、森町にある道立高校へ通学した数年間のあったことが語り伝えられている。通学する高校生のために、町道から駅へ行き来する線路沿いの道には砂利が敷き詰められ、線路との間には鉄パイプで組み立てられた防護柵が設けられたという。この駅に停車する列車はわずかでも、その何倍もの本数の特急や貨物列車が通過する幹線である函館線なのである。たった一人ではあっても、定期客の安全のために、そうした対策はきちんととられたのである。

秘境駅を利用するたった一人の高校生の話題は、JR発足時に仮乗降場から駅への昇格で注目された、旧白滝駅でも取り上げられた。3年前、この駅から新たに高校通学を始める生徒の存在が判って当面の廃止が延期され、その卒業を待って2016年3月26日に廃止されたこと。きめ細かな列車ダイヤが設定されており、下りは、高校に向かう朝7時16分発だけだが、上りは、高校から帰宅する時刻を勘案して昼14時08分、夕16時53分、夜20時06分着の3本あったこと。クラブ活動のある日や土曜日にも配慮した列車ダイヤの原型は、この子の先輩たちの時代にまで遡るが、鉄道会社と地域住民とが話し合った結果、こうした優しい物語が生まれたのだという。

鉄道とは、移動という目的を果たすための手段に過ぎないという見方もあろうが、日常を離れた余暇としての旅行や出張を代表とする必要に迫られての移動など、人々と鉄道との接点は、暮らしの中でその多様性を上げてきた。速達性を最重要視する新幹線などの高速移動の普及の一方で、小幌駅の存続に見られるように、駅を訪れることそのものを目的とする旅の需要にも底堅いものがある。

車を持たない高校生たちにとって、通学手段としての鉄道の重要性は言うまでもない。ローカル線が減便された結果、不必要に長い待ち時間を強いられる高校生と、心づくしのきめ細かな鉄道ダイヤの設定と駅の廃止の延期で卒業までの3年間の列車通学を果たした高校生。この子たちが大人になってからの鉄道への思いの深さを、しっかりと考えてみたい。